

平成29年度第2回文系チャレンジ講座を実施しました

今年度3回目となる第2回文系チャレンジ講座が、平成29年6月7日、本学福祉健康科学部の廣野俊輔先生により、「障がい者福祉への招待」と題して行われました。

遠隔配信された高田、大分商業、国東、大分鶴崎、大分西、安心院、臼杵、三重総合、別府翔青、竹田、日田、大分雄城台と来学受講した佐伯豊南の13校271名の高校生が受講しました。竹田高校は今回初めて遠隔配信授業に参加しました。以下は来学受講した佐伯豊南高校の先生から寄せられた感想です。

廣野先生にはやさしく、丁寧に、テンポ良く講義をしていただきました。大学を訪問して受講した本校生は福祉科の2年生ということで、福祉に関する知識や考え方を見直すことのできた意義深い貴重な時間となったようです。



授業はまず、『障がい者』とは」との定義から始まりました。私たち大人にとっても他人事ではない、日頃、学校という社会のなかで、いろいろな子どもたちと関わるうえで知っておくべきことを改めて気づかせていただきました。

高等学校で進路指導の仕事をしている者にとって、「障がい者」の進路、仕事をとおして地域にかかわることの困難さには無関心でいられません。今回の講義の中で先生が発せられたフレーズ「障がい者は、社会の環境の影響を受けて変わりうるもの」は特に印象深く、私たちがこれからどんな共生社会を目指していくのかを投げかけてくれているかのようでした。

最後に先生から、準備していただいていた多くの様々なアイテムを紹介してもらい、私たちも「ハッ」とさせられる着眼点や思いやりに溢れた工夫の数々に感動を覚えました。もっと身のまわりに目を向けて、生徒たちといっしょに共生社会を創造していきたいと自然に思える講座でした。どうもありがとうございました。

講義後のアンケート調査では、「総合的に判断して授業がよかった」(100%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ)、「教員は真剣に取り組んでいた」(100%)、「受講生は授業に意欲的に取り組んでいた」(100%)という結果でした。

遠隔配信については、「音声はよく聞こえた」(99%)、「映像はよく見えた」(99%)という結果が出ました。受講生の主な感想として、「障がいのある方の困りや支援の仕方が分かってよかった」「障がいのことをより深く知り、もっと人のことを考えて行動しようと思った」「障がいのある方に配慮して作られた実物を見られて良かった」といったものが多く寄せられました。

